

情勢報告

ユズの青果出荷拡大に向けた取り組み（北川村）



ユズ青果集荷拡大に向けた活動計画を検討

4月23日、JA土佐あき柚子部北川支部青果研究会（24年2月設立）は、第1回役員会を開催し、今後の組織運営や活動計画、栽培講習会の内容や参加者を増やす工夫等について協議した。

振興センターは、青果率アップに向けた講習会等の開催を提案した。また、今後もカラーリングによる出荷拡大等についてサンテ被覆の実証圃等の技術指導や、販促活動の支援を進める。

同様の取り組みは、安芸（畑山支部、東川支部）も推進しており、産地維持に向けたユズ生産者の意欲の高まりが見られだしている。

安芸市環境保全型農業の取り組み



ベテラン農家も熱心に勉強

4月23日～5月1日に園芸農家を対象とした、環境保全型農業推進事業の説明会と勉強会を安芸市内4カ所で開催し、103人が参加した。

環境に配慮した天敵活用の農業技術は年々拡大し定着している。市役所は環境保全型農業推進事業の説明を行い、振興センターは「肥料の各要素の働き」と本事業に取り組んだ農家から得た「天敵を活用した害虫防除アンケートの集計・分析結果」を情報提供した。

「肥料の各要素の働き」の講義は農家の要望に基づいたもので、「勉強になった」という感想が聞かれた。

今後も振興センターでは農家の意見・要望を取り入れながら勉強会を開催していく。

海洋深層水なす、エコシステム栽培登録にむけて総会を開催



エコシステム栽培の要件を確認

4月23日、JA土佐あき羽根集出荷場で室戸海洋深層水なすの生産者臨時総会が開催され、生産者24戸がエコシステム栽培への登録について話し合った。

事務局（JA）から内容説明があり、振興センターは県内の登録状況を紹介し、ISO14001を活用して取り組んでもらいたいと提案した。

今後の対応について活発に議論され、次作からの登録に向けて関係機関と調整していくことが決まった。

振興センターでは、今後も新たに天敵利用技術を導入する生産者への技術支援を行っていく。

## 「どんな取り組みをしているんだろう」直販所での研修



チェックリスト片手に研修中

5月17日、芸西村の直販所「かっぱ市」関係者等7人が優良事例の直販所2か所（高知市「鏡村のみせ」、香南市「やすらぎ市」）で研修した。魅力ある売り場づくりや、組織体制等の構築を目的に振興センターが企画した。

参加者は、品揃えや品質管理、商品情報の表示、運営方法など振興センターが作成した24項目のチェックリストを活用し、研修した。

「商品が見やすい」「直販の関係者がすぐ商品説明ができるのには感心した」「かっぱ市でもポップを増やそう」などの声が聞かれた。

振興センターでは今後も集客力アップに向けた活気ある売り場づくりへの支援を行っていく。

## ミョウガ病害勉強会－「いざという時これで安心」ヨウ化メチル剤講習会－



しっかり手順を頭に入れます

5月17日、JA土佐あきミョウガ部会は奈半利支所で、ヨウ化メチル剤使用許可認定講習会を農薬メーカーの協力により開催し、同時に腐敗果対策等を協議した。

本薬剤はミョウガの重要病害である根茎腐敗病に登録があり、臭化メチル剤代替剤として特に注目されている。また、使用にあたっては講習会を受けることが義務化されている。

講習会では、実技もあり、最初は遠慮がちであった農家が、最後には前へ出てきて積極的に操作法を学ぶようになった。

その後振興センターとJAは主にミョウガの腐敗果対策について情報提供し、農家と情報交換を行った。

今後も振興センターは健全なミョウガの安定生産のため、新薬剤や病害についての情報提供を積極的に行っていく。